

食への好奇心と探求心から生まれた、  
美味しそうな物語の数々。



「満漢全席」「魔法探偵」「怪奇三昧 英国恐怖小説の世界」

■プロフィール

昭和33年東京生まれ。開成中学・高校を経て東京大学文学部・同大学院英語英文学修士課程修了。『酒仙』(新潮社)で第5回日本ファンタジーノベル大賞優秀賞受賞。主な著書に『中華文人食物語』、『恋恋の詩人ダウスン』、『人生はうしろ向きに』(以上集英社新書)、『魔法探偵』(集英社)など。訳書に『ねじの回転』(ジェイムズ 共訳 創元推理文庫)、『木曜日だった男一つの悪夢』(チェスタトン 光文社古典新訳文庫)、『秘書奇譚 ブラックウッド幻想怪奇傑作集』(ブラックウッド 光文社古典新訳文庫)、『人間和声』(光文社古典新訳文庫 近刊予定)などがある。



作家・翻訳家  
南條 竹則さん  
なんじょう たけのり

第238回  
荒川の人

食べ物やお酒にまつわる話、南千住界隈を描写した物語など、美味しそうで、親しみやすいファンタジー小説を多く手がける南條さん。荒川区に住むきっかけとなった三ノ輪の「砂場」さんにて、小さい頃のお話や作家・翻訳家の仕事について伺いました。

中学進学にはじまり、  
徐々に深まっていく荒川区との縁

生まれは日本橋本石町。そろばん問屋を営むご祖父母と暮らしていた南條さん。お祖父様の引退をきっかけに、原宿へ引っ越すことになりましたが、方が悪く、方違えのため、一度浅草に。1、2年の予定でしたが、ご祖父母が浅草を気に入ってしまい、千束町に5、6年間、住んだそうです。

「子どもの頃は贅沢をさせてもらいました。お祖母さんが、お寿司が好きで、浅草にいた頃は、家から1分のところにあつたお寿司屋に、よく連れて行ってもらいました。それから、神田明神下にあつた小さな花柳界に、親戚の料理屋があつて、そこにも行きました。そこは卵焼きが名物で、子ども心に本当に旨いと思いました」

幼い頃から食への関心が高かったことがうかがえるエピソードです。荒川区との最初の縁は進学先の開成中学・高校。その後、大学院生のとき、家庭教師をしていたお宅の御主人が下町で食べ歩くのが大好きな方で、浅草の馬肉屋、根岸のふぐ屋などあちこち連れて行ってもらったそうです。そのひとつが三ノ輪「砂場」。蕎麦が好きだったこともあり、それから近くに用があれば、立ち寄りやすくなったと言います。

そして、原宿を引っ越さなければならなくなったとき、子どもの頃、慣れ親しんだ浅草に物件を探した南條さんでしたが、「マンションは大嫌い」「2階より上には住みたくない」という条件に見合う家はなかなか見つかりません。困っていたところ、「砂場」の亡くなったおかみさんが「この辺も住みいいからどうです?」と、不動産屋を紹介してくれました。それから、荒川区に住むことになり、それから15年。

「1」という条件に見合う家はなかなか見つかりません。困っていたところ、「砂場」の亡くなったおかみさんが「この辺も住みいいからどうです?」と、不動産屋を紹介してくれました。それから、荒川区に住むことになり、それから15年。

香港女優に会いたい思いで  
初の長編小説に挑み、みごと受賞

初めて翻訳で収入を得たのは、中学生のとき。イギリスのフレデリック・ディーリアスという作曲家が大好きだった南條さんは、日本で彼の名を広めたいという思いから、音楽評論家、三浦淳史氏へ手紙を出しました。それが縁で、ディーリアス作品集の記念版CDが出ることになったとき、声楽曲やオペラの歌詞の訳に南條さんが翻訳したものが採用されたそうです。

「翻訳は1対1の言葉の対応がありませんから、日本語として読めるようにするには、どこかを捨てるわけですね。捨てちゃいけない部分だと判断するか、枝葉末節だからいいと判断するかは訳者の文学観や作品に対する見方で違ってきます。変わった人の書いた原文や古くさい言葉を使う人の文章だと困ってしまいます。凝ってわざとわかりにくく書いているから、何かしらわかりにくくしなきゃいけないでしょ。でも、全然わからないと翻訳する意味がないので、その辺の兼ね合いが難しいんです」

一方、長編小説を書いたきっかけは、なんと香港映画「チャイニーズ・ゴースト・ストーリー」の主演女優、ジョイ・ウォンに一目惚れして、彼女に会いたいという一心から。

「僕は東大だったんだけど、早稲田の幻想文学会というサークルに通っていて、その同人誌に短い小説を書いたりしていました。ただ、長いものを書いたのは、それが初めて」

小説を書いて賞でも取れば、出版

社がジョイ・ウォンに会わせてくれるかもれないと、教鞭をとりながら小説を執筆。『酒仙』でファンタジーノベル大賞に応募し、みごと優秀賞を受賞。ジョイ・ウォンとは映画雑誌のインタビューで会うことができました。その後、賞金で中国の宮廷料理「満漢全席」を食べるツアーを企画し、中国・杭州で素晴らしい美食の宴を開いたその様子は、同タイトルの本にも綴られています。

次作は、エッセイ風にまとめた  
子どもの頃の美味しい話

著書のなかには「砂場」や荒川区の路地裏が登場するものも。『魔法探偵』では、主人公の自宅兼探偵事務所がある南千住10丁目(架空)の路地裏が描写されていますが、その風景はまさに南條さんがお住まいの辺り。

「この界隈は古い建物が多く、ネコがいっぱいいるのが好きでしたね。再開発前の駅前の飲み屋も好きでした。特に串煮込み屋。この辺は本場でたくさんあつたんですよ」と荒川区に引っ越してきた頃の様子を語る南條さん。

最後に温めている作品について伺ってみました。

「子どもの頃食べた卵焼きの話なんかをエッセイのような形で1冊にまとめようと思っています。僕は子どもだったから、細かいことがわからないので、親やおじさんに聞いて、背景を取材しているところ」と、教えてくださいました。美味しい話が盛りだくさんの内容になるのではないかと今から楽しみです。

南條竹則さんのブログ  
「猫城通信 / 南條食単」  
<http://jardindexsupplies.cocolog-nifty.com/>  
南條さんの食の備忘録ブログも見!

ぶくろ収納から、ゆとりの収納へ!  
**トランクルーム 貸し納戸**  
安心な管理人常駐!!管理費・共益金ナシ!!天井高3mで収納抜群!!  
2階 割安ブース完成!!  
3階 若干空きあり!!  
NEW  
詳しくはホームページをご覧ください  
※空室はお電話にてご確認ください。  
お申し込み  
お問合わせ  
泰山堂トランクルーム 東京都荒川区荒川4-48-3  
TEL03-3802-8888 (8:00~19:30) FAX03-3805-2690  
<http://www.okubopp.co.jp/>

夏のご宴会ご予約承り中  
【最大宴会人数60名様までご利用いただけます】  
夏のすき焼きフェア 期間:8月17日(月)~8月31日(月)  
追加肉半額  
シャブしゃぶ、すき焼きコース  
お召し上がりのお客様  
グラスドリンク人数分プレゼント  
●2,160円以上の料理をご注文に限りです。  
●グラスドリンクを人数分プレゼントいたします。  
●他券との併用はできません。  
●ご飲食前に係員にお渡しください。  
●平成27年9月30日まで有効  
●本曾路南千住店のみ有効

北の幸祭り 8月9日(日)まで開催中  
夏のご宴会ご予約承り中  
特別価格でご提供いたします。  
【和牛霜降肉】  
通常価格4,860円 → 3,996円  
【国産牛ロース肉】  
通常価格3,996円 → 3,132円  
無料送迎バスをご用意いたします。  
※10名様以上のご利用で承ります。  
木曾路南千住店 荒川区南千住5-6-15  
TEL: 03-5850-5567